



●施設建設の背景とオープンに至る経緯

美しい田園風景の広がる宇部市西万倉（旧楠町）に、地元住民が待ち望んでいた地域活性化の推進拠点「楠こもれびの郷（さと）」が、今月5日にオープンしました。この度オープンしたのは、温浴施設「くすくすの湯」、農産物直売所「楠四季菜市」、農家レストラン「つつじ」の3施設で、「楠むらづくり株式会社」が指定管理者として管理運営にあたっています。

施設建設の背景には、旧楠町の基幹産業である農業が、農家の後継者不足や高齢化などにより、荒廃農地の増加や生産量の減少などの課題に直面していたことがありました。そこで策定された方策が、農地を守り農業振興を図る「農業振興ビジョン基本計画（平成16年3月）」と、温浴施設の集客力を活用し地域の活性化を図る「温泉利用計画（同年5月）」でした（参考【表1】）。

平成16年度には、両計画を融合させた実施計画を策定し、宇部市との合併（平成16年11月）後、新市に継承され、平成18年度には農業振興につながる近辺のほ場整備を含めた「楠こもれびの郷整備計画」として、農水省と国交省の補助事業（総額約11億2千万円）に採択されました。

以後、土地改良事業と一体的に施設建設が進められ、この度の施設オープンへと至りました。

●施設建設に活かされた地域住民の声

従来、旧楠町では“ハコモノ”を建設する場合、行政主導で事業が進められ、地域住民の声が建設計画や事業内容などに十分に反映される機会は少ない状況にありました。

しかし、地域の基幹産業である農業の今後のあり方と深く係わる拠点施設を整備するうえで、「地域に本当に必要なモノを知っているのは地域の人。その意見を反映し運営するためには地域の力が必要。」という考えのもと、「楠の農業と温泉を考える会」が平成16年6月に設立されました。同会議は、地域住民が参加しやすいよ

【表1】 「楠こもれびの郷」オープンまでの経緯

1	温
	「農 ン」
	「温」
	「楠の農 温」設
	温
	温 所 温
	農、交の
	施設建設
	「楠 くり」設
	市 「楠こもれびの郷」の
	「楠こもれびの郷」オープン
	農 交流施設（「農」）

「楠こもれびの郷」

（左建物：温浴施設、右建物：農産物直売所・農家レストラン・交流室）

う、毎回午後7時から開催（2時間程度）され、地域住民の貴重な意見やアイデアは、建設計画や事業プランに多く反映されました。また、要所要所では、設計コンサルタント会社や、建築設計・地域計画を専門分野とする地元の大学教授のアドバイスも受け、事業の方向性に誤りがないことを確認しつつ、次のステップに進みました。こうした慎重な進め方により、会議は過去5年間で30回にも及んでいます。

●地産地消と雇用創出に貢献

「楠こもれびの郷」はオープン早々、温浴施設の1日の利用者が1,000人を超え、目当ての野菜は午前中で売り切れとなるなど、早くも活況を呈しています。地産地消の推進、新規雇用の創出（3施設で約30人）に貢献する拠点施設として、幸先の良いスタートを切っています。

また、「一日をゆったりと過ごせる癒しの施設」となるよう、各施設には地元市有林の木材（杉、檜）等がふんだんに用いられ、照明は高窓から差し込む自然光を最大限に取り入れる工夫がなされています。やわらかで落ち着いたある館内の雰囲気は、心身ともに大きなりフレッシュ効果が得られます。各施設の特長は、次のとおりです。

<温浴施設「くすくすの湯」>

毎分500Lの豊富な湧出量があるさらりとし



「くすくすの湯」檜風呂

た泉質のアルカリ性単純温泉（34.6度）を直接加温し、循環させない源泉掛け流し方式としています。

<農産物直売所「楠四季菜市」>

地元農家で収穫されたての、新鮮で安心・安全な野菜（万倉地区のなす、吉部地区のきゅうりなど）をはじめ、各種農産加工品などが販売されています。

<農家レストラン「つつじ」>

地元農家が生産する新鮮な食材にこだわった日替わりの一品料理をセルフ方式で楽しめます。

●期待される、さらなる利用者の増加

来春には、都市住民との農業・農村体験などの交流拠点となり、農家が新たな農業技術を習得し、新規就農希望者が農業教育を受講する場となる農業研修交流施設（愛称「万農塾」）がオープンします。すでに、モデル農園（約5ha）および体験農園（0.5ha）は3施設の外周に整備されており、研修交流事業のマネージャーも決定していることから、足かけ10年にも及ぶ「楠こもれびの郷整備計画」の完了まで、あと半年ほどとなりました。地域住民の幾多の思いが込められた自慢の施設が、今後もより多くの人に利用され、喜ばれることで、当地域の活性化が推進されることが期待されます。

（中村 滋）



「楠四季菜市」売り場